宮崎県市町村・地域づくり団体等協働モデル事業

「手をつなごう！！」
異世代間交流による
ふるさと再発見プロジェクト

一般社団法人　ＨＵＧ

小林市

事業名：「手をつなごう！！」異世代間交流新体験プロジェクト

１．【団体の概要】

一般社団法人ＨＵＧは、令和３年度から小林市の委託を受け「放課後児童クラブ」を２カ所新設し運営している。また令和５年度は宮崎県の認可を受け「放課後等デイサービス」の運営も行っている。とりわけ「放課後児童クラブ」は「障がい児受入（強化）推進事業」も併せて委託を受けていることもあり、障がいの有無に関わらず、様々な児童生徒やその保護者の支援を行っている。

２．【事業の目的、ねらい】

令和３年度の事業開始以降、「放課後児童クラブ」の児童のなかにも、精神障害（主に発達障害）と診断されて利用する児童が増加してきた。加えて、不登校（行き渋り傾向の児童生徒）の相談件数も増えてきたことにより、令和４年度から生活困窮家庭の児童生徒を対象とした「無料学習支援塾『きそ塾』」を開校し、学習支援を中心に児童生徒やその保護者と面談を行うなかで、複数の課題に苦しむ家庭が潜在している現実を伺い知るようになった。

こうした中で、地域を構成する様々な年齢の方々と子ども達や保護者が協働の体験（イベント）をすることにより、そこで生まれる「語らい」の中から埋もれている課題を発見し、「お互い様」の気持ちでそれぞれの立場から関わりを持つ機会を意図的に仕掛けることを目的に本事業を実施した。

地域の人々の関わりにより、地域で育った子ども達は、地域への愛着を持ち、成長しても地域を忘れずに自分の故郷に貢献してくれるものとの期待もある。

３．【活動内容】

事業計画立案時点では、５つのイベントを計画したが、事業開始直後に地域の方から「餅つき体験で使用するもち米を子ども達の手で作らせては」との水田提供の申し出があり、「田植え」「稲刈り」の２つのイベントを追加し、合計７つのイベントを実施し上記の目的達成を目指した。

参加する子どもやその保護者および地域の方々は、広報用チラシを行政等の協力をもらい配布し、希望申込みによって参加された。

以下、活動報告については、イベントごとに報告する。

Ⅰ．各イベントごとの実施報告

［臨時追加イベント：どろんこ田植え体験］ 報告

期　日	令和５年６月 17 日（土）
時　間	10：00（集合）～11：30（解散）
場　所	細野小学校近くの水田（借地）
内　容	○細野小学校近くの水田を借り、12 月予定の「餅つき」に使用する「もち米」の田植えを行う。 ○機械による作業ではなく、田植え紐を用いた手植え作業を実施した。 ○田植えの前に、水を張った水田で「どろとなじむ」遊びを実施した。 10：00 細野小学校体育館前駐車場集合（水田に移動） 10：10 挨拶・説明 10：15 田植え開始 11：00 片付け・講話 11：30 解散
参加者	児童 37 名　／　保護者 15 名　／　合計 52 名
講　話	松田春年氏：昔の田植えの様子についての話
協　力	株式会社松田林業（水田提供）
その他	ＵＭＫテレビ宮崎取材／放映

［臨時追加イベント：どろんこ田植え体験］ スナップ写真

① 田んぼでの「どろ遊び」準備	② 「どろ遊び」
③ 田植え準備	④ 田植え
⑤ 田植え	⑥ 田植え

［第１回イベント：手作りそうめん流し体験］ 報告

期　日	令和５年８月19日（土）
時　間	10：00（集合）～13：00（解散）
場　所	ＨＵＧ別館
内　容	○山から切り出してきた孟宗竹を使って、そうめん流し用の装置を手作りする。 ○湯がいたそうめんを実際に流し試食する。 10：00 ＨＵＧ別館集合・作業説明 10：10 竹とい・足場作成 11：00 組み立て作業 12：00 試食会 12：50 講和：宇都克典氏 13：00 解散
参加者	児童18名　／　保護者６名　／　合計24名
講　話	宇都克典氏：食と協働の大切さについて
協　力	コインルーム（代表：宇都克典氏）
その他	

［第１回イベント：手作りそうめん流し体験］　スナップ写真

①　２階からの階段で竹とい設置	②　そうめん流しの風景
③　そうめん流しの風景	④　そうめん流しの風景
⑤　そうめん流しの風景	⑥　そうめん流しの風景

［第２回イベント：オーケストラとの交流会］ 報告

期　日	令和５年９月 23 日（土）
時　間	９：00（集合）～　16：30（解散）
場　所	小林市文化会館（大ホール）
内　容	○小林市民の有志により「きりしま山麓ウィンドオーケストラ（吹奏楽団)」を結成し、プロのオーケストラと同じステージで共演する。 ○小林市内の児童による「こばやしちびっこ合唱隊」を結成し、プロのオーケストラと同じステージで共演する。 ○小林市内の高校生によるスタッフを募集し、前日リハーサルからプロのオーケストラと行動を共にすることにより、一つの公演を支える仕事を実際に体験する。
参加者	吹奏楽団 19 名　／　合唱隊 50 名　／　スタッフ 16 名　／ 合計 85 名
講　話	田中美幸氏：京都フィルハーモニー室内合奏団理事長
協　力	京都フィルハーモニー室内合奏団
その他	

［第２回イベント：オーケストラとの交流会］ スナップ写真

オーケストラと小林ちびっ子合唱隊	オーケストラと市民吹奏楽団
オーケストラと小林ちびっ子合唱隊	小林ちびっ子合唱隊
小林ちびっ子合唱隊	小林ちびっ子合唱隊

［第３回イベント：アフリカンドラムをみんなで奏でよう］ 報告

期　日	令和５年 10 月 15 日（日）
時　間	１回目ライブ（10：00-11：00）／２回目ライブ（13：00-14：00）
場　所	ＨＵＧ別館
内　容	○異文化音楽（アフリカ）に直接触れることにより、様々な人々の暮らしがあることに気づく。 ○自由な表現ができるアフリカの音楽を、自らも演奏に加わることにより、他と協力して一つのものを創り出す喜びを体験する。 ○西アフリカの生活や文化の話を直接聞くことにより、自国の生活からより広い視野で物事を考えることができるようになる。 ９：00 スタッフ集合・打合せ 10：00 第１回ライブコンサート 11：00 ワークショップ（来場者といっしょに演奏会） 13：00 第２回ライブコンサート 14：00 ワークショップ（来場者といっしょに演奏会） 15：00 片付け・反省会・解散
参加者	児童 11 名　／　保護者７名　／　合計 18 名
講　話	ユウジマン氏：アフリカの文化と音楽武者修行
協　力	コインルーム
その他	

［第３回イベント：アフリカンドラムをみんなで奏でよう］ スナップ写真

全体でのアンサンブル	ワークショップ（個別講習）
ワークショップ（個別講習）	ワークショップ（個別講習）
フリータイム（自由練習）	フリータイム（自由練習）

［臨時追加イベント：稲刈り体験］ 報告

期　日	令和５年 11 月４日（土）
時　間	10：00（集合）～12：00（解散）
場　所	細野小学校近くの水田（借地）
内　容	○６月に実施した「田植え」で成長した稲を自分たちの手で刈り取ることにより、生産者の苦労や自然の尊さを学ぶ。 ○食への関心が高まり、食べ物の好き嫌いが多い子供でもきちんと食べるようにしようという気持ちを抱かせる。 10：00 細野小学校体育館前駐車場集合（水田に移動） 10：10 挨拶・説明 10：15 稲刈り①（手刈り）体験 11：00 稲刈り②（コンバインによる機械刈り）見学 11：40 片付け・講話 12：00 解散
参加者	児童 33 名　／　保護者 19 名　／　合計 52 名
講　話	松田利幸氏：コンバイン作業協力者
協　力	株式会社松田林業
その他	ＵＭＫテレビ宮崎取材／放映

［臨時追加イベント：稲刈り体験］ スナップ写真

子どもの稲刈りの様子	子どもの稲刈りの様子
子どもの稲刈りの様子	子どもの稲刈りの様子
親子でいっしょに稲刈り	稲刈り終了

［第４回イベント：植樹／自分の植えた木に自分のネームプレートをつけよう］ 報告

期　日	令和 5 年 11 月 19 日（日）
時　間	９：30（集合）～11：30（解散）
場　所	野尻三ケ野山 3514 広場
内　容	○協働で子どもが自分だけの木を植樹することで、親子共通の話題を持つ。 ○実の生る木を植樹し、自分のプレートを設置することにより、自分の木の成長を大切に見守る気持ちを養う。 ○実の生る時期に、親子や友達と現地を訪れ収穫を楽しむことにより、郷土に対する愛着の心を育む。 10：00～ 集合・出席確認・作業手順説明（現地にて） 10：10～ 植樹用の穴掘り 10：30～ 植樹 11：00～ 名札プレート設置 11：20～ 講話・反省会 11：30　 解散（現地にて）
参加者	児童 20 名　／　保護者・家族 12 名　／　スタッフ 6 名　／ 合計 38 名
講　話	四藤氏：自然と木々の大切さ
協　力	株式会社松田林業、四藤造園、株式会社ひなもり銘木、 山林取引紹介業　伊達氏
その他	

［第４回イベント：植樹／自分の植えた木に自分のネームプレートをつけよう］

スナップ写真

苗植えの説明

親子植樹

自分の木

各々の植樹

親子植樹・プレート設置

［第５回イベント：昔ながらの餅つき体験］ 報告

期　日	令和５年 12 月 17 日（日）
時　間	９：00（集合）～13：00（解散）
場　所	ＨＵＧ別館前（屋根付きスペース）
内　容	○令和５年６月 17 日（土）に実施した「田植え」、および 11 月４日（土）に実施した「稲刈り・脱穀」の一連の活動の総決算として、収穫した「もち米」を使った「餅つき」を実施する。 ○自分たちが育てた「もち米」を、昔ながらの方法で「蒸し・つき・食べる」ことによって、自然や食に対する感謝の心を育てる。 ○親子の協働体験を通して、親子共通の話題を持つことの大切さに気づく。 ９：00 集合（通り町駐車場）、出席確認 ９：10 概要説明 ９：30 火起こし開始 10：00 蒸し作業開始 11：00 餅つき作業・成形 12：00 試食・反省会 13：00 終了・解散
参加者	児童 25 名　／　保護者９名　／　合計 34 名
講　話	森山貴弘氏：受け継がれてきた昔の人々の知恵と日本の文化
協　力	コインルーム
その他	ＵＭＫテレビ宮崎取材／放映

［第５回イベント：昔ながらの餅つき体験］スナップ写真

セイロ蒸前の湯沸かし （薪の火おこし）	餅つき（室外）
餅つき（ガレージ内）	形成作業（餅丸め）
形成作業（餅丸め）	美味！　しょうゆ餅焼き

４．【事業の成果、効果】

［成果］

○ほとんどの子ども達が初めて体験する内容ばかりであったため、参加者が活動への興味・関心を深めることができた。そしてたくさんの親子の笑顔を見ることができた。

○時代的な背景もあり、子どもも保護者もネット上の仮想体験に依存する傾向が高まるなかで、部屋から外にでて自然と向き合うことで、特に子ども達には大きな変化が見られた。

○日常会話で「死ね！殺す！」を意味も分からないまま口にする子どもが、火起こし体験などでは、他と協力して行動し、指示されたことにも「はい！」と元気よく答え素早く動き回る姿が印象的であった。

○どろんこ遊びなど、普段の生活では抑圧され気味の活動も、親子で一緒に取り組むことでお互いの気持ちを開放することに役立ち、互いの距離を近づけることができた。

○高齢者（特にシニア世代）が知る先人の知恵を発揮し、子ども達や保護者に伝えることで、自信をもって自分達（シニア世代）が地域の貴重な人的資産であることを認識できたようである。

○イベントの開催に向けて、様々な企業や地域の方々からの協力を得ることができた。

○イベントごとに出会う地域の人たちが顔見知りになり、活動を通して雑談することにより地域の人を知る機会となった。

○活動のなかでの語らいを通して、普段なかなか話せない悩みや苦労の一端を口にすることができた方もおられたようである。待ちの姿勢による悩み相談以上に大きな効果があるように思われた。

［課題］

○イベントごとにチラシを作成して配布するなど市内に向けて告知を行ったつもりではあるが、情報が隅々まで行き渡らなかったようである。今後は SNS での発信など告知の方法をさらに工夫する必要がある。

○今回実施したすべてのイベントは、子ども達の成長はもとより、故郷の存在を改めて知る機会となった。これを毎年継続して実施することが何よりも必要なことである。

○イベントを毎年同時期に恒例化することにより、口伝による周知を促し、昔から伝わる手法や伝統技術を新しい世代にも積極的に伝え続ける必要がある。

○市内の各地区や福祉事業所・企業等と連携ネットワークを創り、イベント実施に向けての人的協力や資金面での協力も含めて共に創り上げる協力体制の整備を日頃から行っていく必要がある。

５．【まとめ】

本モデル事業の体験活動は、「昔ながらの体験活動」を多く企画したことから、子どもの興味・関心も高く、地域の方々も意欲的に参加されていた。活動を通して顔見知りになり、現代の子どもの考え方や意識を直接感じられたことや、活動のなかでの何気ない会話から得た情報は、地域で暮らす住民としてこれからの地域社会の在り方を考える機会になったことであろう。

我々にとっても、今回の「餅つき体験」に付随する形で「田植え」「稲刈り」のイベントを急遽追加したことにより、活動の連続性がいかに大切であるかということに気付かされた。一連の活動に参加した子どもや保護者にとっては、時間をかけて自分達の手で作り上げたものを加工して自分の口にするという行動が、自然の力のすばらしさと人間の知恵、そして皆の協力の大切さに気付かされることになったことは参加者の言動に如実に出ていた。

これからの課題は、何よりもこのような体験活動を意図的・継続的に仕掛けていくか、そして活動のなかの「語らい」から拾い上げた個々が持つ困り感に地域のそれぞれの立場でどのように寄り添っていけるかの「受け皿」を構築していくことが必要である。

そのためにも、今回のモデル事業の長期的な継続こそが重要になってくるものである。